

◇卒業論文要旨

(昭和51年3月卒業生)

神戸市の都市機能

石上まり

神戸市は歴史においても経済や産業構造においても神戸港と不可分に結びついていて、現在神戸市の一部たる神戸港が事実は今日の神戸市を建設し国際港都としての神戸市に発展させたのであって、まさに神戸市の発展は神戸港の存在なくしては論じることができない。神戸市の経済が港湾活動に依存する比率は40%～60%にも達している。

神戸港は自然条件に恵まれた天然の良港で、施設も整備され、大阪(阪神)経済圏をそのヒンターランドとし、わが国で横浜港と並ぶ屈指の外国貿易港であり、総取扱貨物量は全国一の座を占めている。長期にわたって全国最大の貿易港として知られてきた神戸港も、年を追って全国的シェアが低下し、横浜港に輸出額、輸入額ともに追い抜かれ、わが国第2の貿易港に転落を余儀なくされた。神戸港の貿易停滞の原因は、機械・機器・金属及び同製品・鉱物性燃料のウェートが低いこと、戦後の市場構造の変化、とくにアジア大陸市場の喪失である。

神戸市の産業は神戸港と密接な関係を持ち、港湾を控えた有利な立地条件から造船所が建設され、それに関連して各種の工業が発達した。食料品(製粉・精糖等)、輸送用機械(造船等)、鉄鋼、ゴムなどの港湾型の少数特定工業に片寄っていて、そのほとんどが原材料の輸入や製品の輸出等の関係で臨海地帯に集中するなど港とのつながりは密接で港に依存してきた。また市内において少数大企業の占める地位が大きく、企業間格差が非常に大きく、はなはだしい経済の二重構造が認められる。神戸市の工業の不振の根拠にあげられるのは、あまりにも基礎的な素材の生産財に傾斜し下請企業の育成と近代化には著しく不適当であるという工業構造自体の欠陥・貿易構造の変化・政治の中央支配の強化である。

商業について言えば、大阪という大商業都市の影響を受け、卸売業については充分成熟しないまま今日に至ったが、小売業は国際的センスを十分に発揮し、着実に業績を伸ばしている。貿易の町神戸として広く知られているように、神戸港をひかえて市内には多くの中小貿易商社がある。また神戸は洋菓子の発祥地といわれ、歴史を持ちブランド知名度の高いメーカーも多い。

山形県西川町の地域的性格

一 過疎問題と農業を中心に 一

大場とよ

山形市からバスで町の中心部まで約1時間半の位置にある西川町は、昔から、庄内と内陸地方を結

ぶ街道沿いに発達した町である。江戸時代までは、出羽三山の信仰によって集まる全国からの参詣者相手の宗教的性格をもった集落が多かったが、三山信仰がすたれた現在、零細な農業を営んでいる農家がほとんどである。

交通は、国道112号線を中心に整備され、この整備にともなって観光資源の開発がねらわれている。通勤・通学や買物などは、隣の寒河江市への依存度が大きく、一部は、山形市へも依存している。

昭和20年には、約16,000人だった人口が、現在は約10,000人に減少し、西川町にとって過疎問題は重要な問題である。人口減少率を集落別にみると、幹線道路に沿い、交通の便がよい集落は、減少率は少く、幹線道路から離れた交通の便の悪い集落は減少率が著しい。人口減少の著しい集落は、村落共同体の維持が困難となり、生活条件の悪化が問題になっている。町では、こうした集落を町の中心部に移し、集落再編成計画を実施している。

農業は、過疎化の影響を受け、停滞している。農家人口は激減し、第二種兼業が増大し、専業農家はわずか3%にしかすぎない。若者が農業を継ぎたがらないために、就業者は老人が目だっている。農作物は、米の他にたばこ、ホップ、こんにゃくなどの工芸作物が中心であり、最近、果樹や花卉栽培がとり入れられているが、農業生産は、全体として減少傾向にある。

冬期は、雪にとざされるため、出稼ぎが多いが、山形県全体からみればそれほど多くはない。山形市などの都市へ比較的近いためと考えられる。

商業・工業については、あまりふれられなかったが、西川町は、商業も工業もあまりさかんではなく、隣の寒河江市に依存している。工業では、農村工業の例として、縫製工場の例をあげてみた。

長野県南佐久郡川上村の高冷地農業

大 森 明 子

川上村は、辺りな位置にありながら、高冷地野菜の産地としての地位を確立している。この論文では、高冷地野菜に着目して、栽培の発展経過をたどり、川上村が高冷地野菜（特にレタス）の大産地となり得た要因を明らかにし、最終的には、野菜栽培の経営状態によって、字別の地域区分をしたいと考えた。

川上村で、野菜栽培が行なわれるようになったきっかけは、昭和11年の国鉄小海線の開通であった。その後、野菜栽培が発展し、現在、野菜の単作地域となっているが、その主な要因としては、次のようなことが考えられよう。

①稲作の限界地で、その生産力が低い。気候が野菜栽培に適している。②野菜栽培に適した耕地が広範に存在する。③強い農業協同組合組織があり、共同出荷している。④高冷地域としては交通の便がよい等である。

野菜類の経営状態によって、字別の傾向を調べ、地域区分をしたが、はじめに、その前段階として、4つの基準によるグループ分けをした。基準は次の通りである。